雑　報

不動尊から古暦を発見

栃木県真岡市の天台宗古刹，荘厳寺（住職，宇南山照信氏）において南北朝時代の暦が見つかった．

これは昭和49年（1974），荘厳寺蔵の居貫不動尊を修理中胎内から発見されたもので200点を越す文書のうち，暦は連続した3年分がほぼ完全に残っていた．

当初必ずしも一般には注目されなかったようであるが，つい先頃古暦研究者の知るところとなり非常に貴重なものであることが認められた．

暦は北朝の康永4，5年，貞和3年（1345～47）の平仮名暦で，康永4年分は版行暦，康永5年・貞和3年分は書写暦である．

現在最古の平仮名版行暦としては東洋文庫蔵の元弘2年（1332）のものが知られているが，これは10月23日～12月18日の断片が残されているに過ぎず，ついでは足利学校遺跡図書館蔵永享9年（1437）三嶋暦がある．そこで今回のものは完全なものとしては現在最古といえる．

暦が不動尊胎内に残されたのは暦としてよりも印仏（約2万体）を納めるための用紙であったと考えられる．ただし康永5年分については暦面側に印仏があり，その理由は不明である．

暦の形式はいわゆる巻暦であるが，一番はじめの標題の部分は失われている．暦を胎内から取り出しひろげたときに巻暦の糊面がはがればらばらになり，大部分はおのおのが約40×30 cm（A3版にちかい）の紙片となった．

荘厳寺は遠く天長9年（832）慈覚大師の創建と伝えられ中世には源氏の厚い保護を受け最盛時は17坊を数え，広大な寺領を有したという．この意味から最古の版行暦といわれる三嶋暦との関連が興味をもたれるところである．

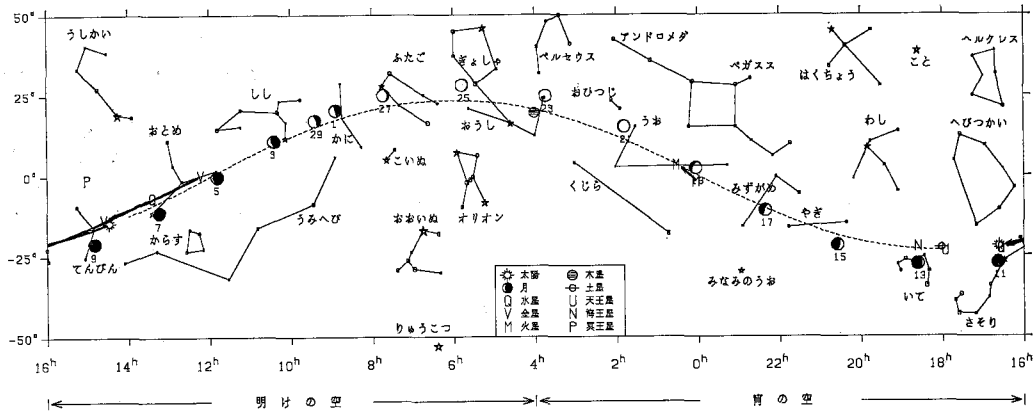
現在，複写写真をもとに年代学研究会（会長大崎正次氏）において調査研究が続けられている．

（伊藤，神田）

1988年8月の太陽黒点（g, f）（国立天文台）

1	9,	214	11	8,	131	21	5,	11
2	—,	—	12	8,	123	22	5,	10
3	—,	—	13	7,	86	23	2,	5
4	10,	148	14	7,	78	24	6,	35
5	9,	112	15	11,	96	25	8,	55
6	8,	114	16	—,	—	26	10,	64
7	9,	189	17	—,	—	27	11,	62
8	10,	154	18	4,	23	28	12,	110
9	10,	166	19	6,	18	29	15,	162
10	10,	153	20	6,	14	30	13,	148
（相対数月平均値：　110.5）						31	14,	162

◇11月の天文暦◇

日	時	分	記　事	
1	19	11	**下　弦**	
4	19	50	月	最遠
5	2	15	冥王星	合
7	13	49	立　冬	（太陽黄経 225°）
9	23	20	**朔**	
17	6	35	**上　弦**	
20	19	28	月	最近
22	11	12	小　雪	（太陽黄経 240°）
23	12	04	木　星	衡
24	0	53	**望**	

◇11月の日月惑星運行図◇